

巣立っていく選手（2021年3月）

細見海翔選手

ぼくは三年生からテニスを始め6年生までしてきました。龍野ジュニアでの思い出はBBQや最後の県大会のことです。BBQは年に1度しかないけど肉などがある限り食べ放題だしみんなと自由に遊べるからです。

県大会のことはこれまであまりぼくはいい成績を取ってなかったけど東兵庫大会でベスト4になり初めとしてどんどんいい成績を取りました。ついに県大会が来てベスト4に入らないとアンダーに選ばれないという緊張の中やっと県大会でベスト4というすごい成績をつかみとったことです。

そして現5年生以下の人達へ。現5年生はぼく達がいなくなったら6年生、つまり龍野ジュニアで一番上の学年になります。だから現5年生達はしっかりと現4年生以下の子達をひっぱって下さい。



西川瑠花選手

わたしの一番の思い出は初めて備前の試合で優勝したこと。なかなか自分のプレーができなくて、こまったときもがんばりながら、ゆうひとはげましあってやりきったことです。ゆうひとは中学校をはなれてしまいうけど、ゆうひにまけないようにがんばりたいです。

後はいちは、元気で練習してもらいたいと思っています。元気な後はいいコーチにおこられても、いやなことがあってもおれずにがんばってほしいです。岡本・細見ペアは県大会の時みたいに「優勝する」という思いをもってしてほしいです。久保田・栗岡ペアは楽しくしている時が一番強いと思うのでがんばってください。長谷川・高橋ペアはミスが多くなったとき

テンションが下がって負ける原因になるので楽しくやってください。

これからも1試合でも多く勝てるように頑張ってください。



内海遼太選手

龍野ジュニアの一番の思い出は、北近畿大会優勝したこと！近畿大会団体戦で優勝したこと！龍野ジュニアのみんなと楽しく練習したこと！です。

いつも厳しい練習だけどその練習をきちんとしたからいい成績が残せました。練習をちゃんとやっていないなら、いい成績を残すことはたぶんできません。だから練習も試合だと思ってすることが大切です。

あとは、心です。おこったり、くさったり、いばったりしたら試合は負けです。最後の一本まで精一杯がんばらないといけません。負けていたりしても声だけは勝って、最後の最後までがんばって負けたらしかたないと思うし、悔いは残らないと思います。全国大会出場目指してがんばってください。

う切符をつかみました。

これからまだまだ先がある「たつのJr」のみんなへ勝利をつかむことは、とても難しいことだと分かっています。でも、「勝ちたい」だけを言っても勝てない。コートの中に入った時だけが練習じゃない。コートの外でもプレーヤーということをお忘れず、努力し続けるともうすぐそこに勝利がくるはず！

最後に指導をして下さった監督、コーチの方と、いつでもどんな時でも支えてくれた父さん、母さん。本当にありがとうございました。これからも感謝と努力を忘れず笑顔でソフトテニスをかんばります！

三村優陽選手

私は6年間たつのJrにお世話になりました。この6年間でたくさんのお話を学びました。テニスのことだけでなく、あいさつや周りを見ること、話を聞くこと、テニスよりも前に必要なことをたくさん学びました。私は4年生のとき、岡山の「もも太郎」で初優勝しました。そこまでの道が長く、ライバルという存在が大きなかんで、負けるとペアがかわるこわさや、るかにこされるくやしさと、テニスをやめたいと思う時期もあり、とてもつらかったです。

私はよく泣いたことを覚えています。ペアがかわり本当にやめたかった！でも、そこを乗り越えるには上手くなるしかない事が今になって分かってきました。私はここから「努力」ということを覚えました。私は自分をおいこみ、努力し続けた結果、4年生で優勝出来ました。私はこれで満足することなく努力を続けました。そうすると6年生で全国大会とい

男前コーチより「心をこめて」「君たちの夢を信じて」一言メッセージシリーズ

⑭明日が楽しくなるように、今日も目標をもって頑張るのだ！

1